令和６年度 第２回伊豆市地域公共交通会議 議事録

日 時：令和７年１月27日（月）14時00分～
場 所：修善寺生きいきプラザ　第１・２会議室
出席者：委員２０名（欠席１名）
他１名、事務局３名

１ 開会

２ 会長挨拶

＜市長挨拶＞

今年もよろしくお願いしたい。

地域公共交通は、市長になってから17年間取組んできた。この間にも市内公共交通の状況は変わった。当初は、過疎化している地域の中において、いかにバス路線を守ることや、バスが走っているのに乗らない住民をどうするのかなどの観点で議論を行ってきた。今は、黒字路線でも運転手不足から廃止せざるを得ない状況である。近年は、ライドシェアとして、行政ライドシェアや地域コミュニティによる通院、買い物送迎支援など、別の運送手法が出てきた。公共交通機関は守らないといけない。しかし、このような取組みだけではカバーができず、新たな運送手法が生まれる。最適な交通手段の選択肢が増えたことから、複数解による連立方程式で解を求めないといけない状況となった。しかし、現実的に課題認識から、伊豆市に最もあった形で落とし込むかの検討は、市長の目の前に突きつけられている状況である。

また伊豆市においては、人口減少が悪化している状況である。二次交通が弱い修善寺駅と下田駅の間の移動手段を弱体化した場合、人口減少と共に、経済活力まで影響を及ぼしかねない。そのような状況下で、議論を続け、トライアンドエラーも考えられるが、その時、その時の最適と思われる施策を行いながら、乗り越えていくしかないと考えている。

本日は、公共交通会議であることから、順に審議をいただきたい。最後にその他で皆様から一般論として、ご意見があれば承りたい。

３ 協議事項

（１）柿木循環線の廃止【資料 P1～P2】

＜資料説明＞

・事務局より資料 P1～P2について説明

＜質疑応答＞

・質疑なし

＜議決＞

・異議なし、承認

（２）市内路線バスの次年度運行【資料 P3～P64】

＜資料説明＞

①地域間幹線系統維持改善事業【資料 P5～P45】

・静岡県より資料 P5～P13について説明

・事業者（バス事業者）より資料 P22～P44について説明

②事業者運行路線（単独維持困難）【資料 P46～P50】

・事業者（バス事業者）より資料 P46～P50について説明

・事務局より資料 P3について説明

③伊豆市自主運行路線【資料 P51～P64】

・事務局より資料 P4、P51～P64について説明

＜質疑応答＞

①地域間幹線系統維持改善事業

委　員：修善寺駅から順天堂病院までの区間が明記されている。この区間は、過去に運行していたが、利用者があまりいないことから運行をやめた記憶がある。いかがか。

委　員（バス事業者）：

今回提示した順天堂病院線は、現在の南伊豆から出ている路線を振り替えることから、天城峠以南からも通院者がいる状況で、ある程度の利用者はいる。どうなるかわからないが、現在、修善寺駅から順天堂病院間は乗車ができないルールで検討している。既存路線を利用するお客様に対し、迷惑をかけない路線としていることから、ある程度の乗車人員は見込めるため、前回の実験のような形にならない。また帰りの便も現在も利用されている方もいるのでさらに乗っていただける。

今後は、既存の利用者に加え、小中学生の通学利用や通勤利用、観光利用などが増えることから、収支的には大きく改善すると見ている。

委　員：修善寺駅から順天堂病院までの区間は、路線の延長になることか。今までは、修善寺駅から順天堂病院は路線がなかったのか。

委　員（バス事業者）：

既存の系統を変更して運行するイメージである。今まで修善寺駅から順天堂病院に向かうバス路線はなかった。現在、南伊豆の営業所が運行していた路線をこれからは、修善寺営業所が運行することから、今までの系統を振り替えて運行するイメージである。これにより、新中学校の生徒や修善寺駅まで行きたい方も乗ることかできる路線となる。また現在も順天堂病院に行く路線は伊東からも出ており、路線的には今までと変わらない。しかし、利用者が少ないことから、起点を下賀茂から下田に変更し、経路を一部変更して運行を継続するイメージである。

委　員：伊東からも運行していることは承知している。以前は、貸切運行していなかったか。

会　長：この路線は、下賀茂地域で負担金を出して運行しているが、路線維持に係る費

用が増加してきたことから、以前のような形で運行ができなくなり、バス事業者と相談して路線の変更を検討している。

委　員（バス事業者）：

20年以上前に伊東市が始め、その後、下賀茂地域や南加茂地域でも運行する流れになった。この路線は、基本的に貸切形態ではなく、路線バス形態である。ただ、路線バス形態だが、あくまでも通院者を対象としており、上りは主要なバス停から順天堂病院に向かい、下りは順天堂病院から主要バス停で降りるような形であった。ただ、バス事業者は収支が合わなかったことから、関係市町や順天堂病院と相談し、支援をいただきながら運行を行った。しかし、利用が減少傾向に加え、コロナにより収支が合わなくなり、運行を維持することが困難となった。このことから、再度相談した上で運行方法を変更し、国庫補助金を活用することによって、各市町の国ないし県の支援を仰ぎながら維持することとなった。

委　員：南伊豆や下田の方が、通院に苦労されており、よいと思う。

会　長：観光客が天城峠周辺の利用を期待していることと、修善寺駅からは乗れないが南の方から来た方が、修善寺駅を通って、矢田眼科でも降りることができ、順天堂病院まで行ける。順天堂病院から乗る人は、必ず南に行くが、観光客は修善寺駅で乗って南に行けることである。色々よく考えられたと思う。

②事業者運行路線（単独維持困難）

・質疑なし

③伊豆市自主運行路線

委　員：４つの自主運行バスが中学校に入ると思う。市道に新規でバス停を設置するのか。我々も把握をしていいないことから、予定を教えてほしい。

事務局：P52に新しいバス停として、松ヶ瀬つり橋、妙本寺前、尾崎荘前、梶山、峰、日向が県道沿いに設置される。また、伊豆中学校西が市道上に設置される。学校付近には、防災公園内に日向公園、伊豆中学校の上りが学校のロータリー内、下りが、現在、市道上にあるバス停の名称を変更して設置する。

委　員：伊東修善寺線に、中学校が開校することからバス停を整備しているが、P52の図ではその位置づけはどういうものか。

事務局：柏久保バス停のことかと思うが、当該バス停は既存バス停だが、小中学生の利用が想定されることから、工事をしていただいている。

会　長：新しいバス停ではなく、安全のために、引き込み工事をしていることか。安全のための工事か。

委　員：用地買収を行い、バス停を新設したイメージでいた。

前回の会議時に、中学校に入るバス系統が４系統あり、ダイヤの関係で２系統ぐらいしか入ることができないという話があった。今回、ダイヤの関係で、４系統全て中学校に入ることができるようになったのか。

委　員：時刻表を見ていないが、４系統全ての路線が入る想定はしていない。

会　長：中伊豆に在住の学生は、柏久保で降り、歩いて学校に登校することを前提に進めていた。既存バス停に、乗り降りによる渋滞対策として、新規に用地買収し、引き込み線のような安全面に考慮した工事をしていただいた。

委　員：当初の想定では、早い時間帯は、高校生の利用が想定されることから、中学校によらないで、柏久保で中学生が降り、バスは修善寺駅に行く想定をしていた。また、バス事業者にも新中学校に寄るダイヤを検討していただいた。最終的なダイヤは拝見していないことから分からないが、帰りについては整備しているバス停の反対側に市の倉庫があり、バス待ちの場として利用できるよう改修しており、既存の柏久保バス停を最大限活用することを考えている。

委　員：我々としては、生徒の安全が一番である。利用される方の人数によって、相当気をつかう整備をしないといけない。当初から計画が変わってきていることから、情報提供を密にしていただいて、生徒との安全に協力していきたい。

会　長：バス停で多くの生徒が乗り降りするため、既存バス停の改修を行っていただいているつもりでいたが、新規事業として、新しいバス停を設置しないと予算編成上の説明がつかないことか。

委　員：予算化されており、事業を進めることに問題はない。事業を進めるにあたり、修善寺中学校の生徒が利用することからバス停を設置する話であった。そもそも中学校にバスが入れないことが始まりだった。その後調整し、中学校内にも入ることができるようになったが、整備しているバス停も必要であることは、理解でいる。我々も対外的に説明をしながら進めたいと思っていることと、安全確保は気にしていたところである。

会　長：工事しているところは、乗り降りがあるため活用されます。

＜議決＞

・異議なし、承認

（３）伊豆市生活交通ネットワーク形成計画の延長【資料 P65～P66】

＜資料説明＞

・事務局より資料 P65～P66について説明

＜質疑応答＞

委　員：ライドシェアの発言があったので紹介する。現在、国では交通空白の解消に力を入れている。先日、交通空白解消の緊急対策事業として公共ライドシェアや日本版ライドシェアの導入支援をする予定となった。補助内容として、基礎データの収集や車両導入アプリ、配車アプリ、運行管理システムの開発、実証運行の費用などを支援する予定である。500 万円を定額とし、500 万円を超える場合は、３分の２を補助する。２月中旬から公募する予定である。公共ライドシェアなどの導入を検討している場合は、活用をご検討いただきたい。

会　長：伊豆市にはタクシー会社がある。また、観光ニーズもあることから、ライドシェアと既存タクシー、バスとのバランスを図れるようにしてほしい。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：色々なことを考えると、計画の延長は望ましい。延長しない場合、データがない状態で、次の計画を策定することになる。他の計画との整合や他自治体においては、計画の一部や分冊のような形が増えてきている。以上のようなことを踏まえると延長がよい。

委　員：先日、台湾に行ったとき、台湾はライドシェアと法人タクシーのナンバープレートの色が同じであり、赤い文字がライドシェアである。
交通ネットワーク形成計画を改定する際には、伊豆市として、自家用有償運送の検討を行うのか。

会　長：現在、地域づくり協議会と修善寺ニュータウンで独自に社会福祉法人から車を借用し、通院や買い物の送迎を行っている。これらの取組みを有償にできるかについて検討を行っている。

委　員：私も承知している。おそらく事業がうまくいかないと見ている。想定されることとして、利用者が運転手によって利用を拒むケースなどが考えられる。また、運転手の確保が難しくなる。現在、運転手の話などを聞いていると心配。

会　長：そのような懸念は、違和感がないわけではない。現に、地元の方が自分たちで運行すると言っており、現在月ヶ瀬等では始まったばかりである。この取組みを行政が辞めろということはできない。地域の動向を確認していきたいと思っている。選択肢として、ライドシェアや公共交通機関も含めて、状況を注視しながら、伊豆市に最も合った落としどころにしていきたい。決して自家用有償運送を排除するものではない。

＜議決＞

・異議なし、承認

４ 報告事項

（１）沢口地区の実証実験（途中経過）【資料 P67～P69】

＜資料説明＞

・事務局より資料 P67～P69について説明

（２）令和６年度伊豆市公共交通再編検討業務【資料 P70～P80】

＜資料説明＞

①ガイドラインの運用（資料 P71～P75）

②地域づくり協議会による実証実験（資料 P76～P80）

・事務局より資料 P70～P80について説明

＜質疑応答＞

・質疑なし

５ その他

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：中学校の開校がまもなくである。また、コロナの時代が終わり、完全に次のス

テージに移ったことにより、来年度あたりには、需要の変化による利用者の傾向が見えてくる。次の計画の検討にあたり、来年度のデータや中学生へのバス利用の促進の検討を進めてほしい。

委　員：地域公共交通会議は委員構成として、伊豆市の住民として参加されている方は２人である。この委員構成により、伊豆市の公共交通に関する意見が集められるのか心配である。近隣市町の会議には、委員構成として公募市民がいる。以前、会議において、「市民を公募しないか」と言ったが、行った形跡がない。会議で市民が公共交通のあり方に関する声を拾えていない。市として公募することは必要事項ではないか。

会　長：他の会議でも公募した場合、参加希望者は毎回ほとんど同じ人である。意見については、広い意見ではなく、個性的な意見が出る。このことから、市職員が日々、市民の意見や状況を把握しているので、それに基づいた原案を色々な知見を持っている方や、事業に携わっている方に入っていただき、審議いただきたい。個人的ではあるが、朝や移動の際にはバスを利用したり、夜はタクシーに乗ってみたりしている。このように、公共交通機関を守ろうとする市民が増えることが理想である。市民の意見については、職員が拾い上げるよう頑張っている。引き続き理解をいただきたい。

委　員：自主運行路線の主体は伊豆市であり、対価をバス事業者に支払っているが、事業者運行路線を廃止し、自主運行に切り替わる際には、行政として見積をとり、精査する必要があるのではないか。

会　長：私が知っている範囲として市民向けの公共交通は行政が行っている国が多い。日本の公共交通は、民間に委ねている。市長として、市民の移動手段を確保することが責務であり、ビジネスとして成立しない場合には、全体を見ながら合理的範囲内で支援することが妥当と考えている。

ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ：市長の言った通りである。一般には色々な方法があり、事業者がいない場合は、外の事業者に声をかけることがある。国内の動向として、一般競争入札をして地元以外から手をあげてくるという事例はない。しかし、ヨーロッパでは、このようなことはある。日本では、地域に精通している事業者に依頼することが多い。地元に、複数の事業者がいる場合は、入札などの形をとる。今回の件に関して、基本的に問題があるとは思わない。また他の自治体も同じような方法である。ただ、タクシー車両の活用についての検討などは、入札前にきちんと議論をするプロセスをとるべきである。

会　長：現時点の計画が５年度、10 年後にそのままあるとは思えない。やり方として、市民の動向を見ながら、柔軟に対応していくことが大切であると思う。

委　員：内容はわかるが、自主運行路線になる場合、今までの事業者が運行していた形態が変わることから、法的に指摘された場合はどうするのか。

会　長：決め方については住民訴訟が起こらないようにこれからも慎重に進めていく。

委　員：乗車率を上げるために、行政側や事業者側がどのような努力をしているのか。乗車率が上がらないと、伊豆市の財政から公共交通に出している支出が１％である。１％は少なく感じるが、金額としては、２億と大きな数字である。解消

していくためには、乗車率を上げ、市民に乗っていただく方法で進めてないといけない。このままだと心配である。

会　長：市としては、基本的に子供の足は守る。通学方法はバスにせざるを得ない。スクールバスとした場合、路線バスの利用促進に逆効果であることから、路線バスを使いながら、最大限バスに乗っていただく。新中学生にエリア定期券を発行し、地域公共交通を利用してもらう設計としている。高齢者は、バス停から自宅まで行けないという声がある。ドアトゥードアになると、別の事業になることから設計が難しい。伊豆市において、最適バランスを求める事業を進めさせていただく。

６ 閉会